

「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」プロジェクト 実証実験「人工降雪に係る予備実験」の実施

内閣府によるムーンショット型研究開発制度の目標8「2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現」のプロジェクトの一環として行われる「人工降雪」に関する予備実験を富山湾近海の上空にて実施いたします。

1. 背景と目的

本実証実験は、近年頻発する集中豪雨による被害を少しでも減らすことを目指し、将来的な降雨・降雪制御の可能性を探る取り組みです。2050年までに、線状降水帯による災害の抑制を目標に、人工降雨・降雪(シーディング)技術により集中豪雨をもたらす可能性のある雲を集中させない方法の確立を目指しており、その一環の実証実験として、人工降雪に関する予備的な実験を計画しています。

2. 実証実験の概要

項目	詳細
実験名称	ムーンショット目標8「2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し 極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現」 小窓プロジェクト「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」(AMAGOIプロジェクト) 実証実験「人工降雪に係る予備実験」
実施期間	実験期間：2026年1月6日（火）～1月15日（木）のうち4日程度 ※気象条件に応じて予定が変更となる場合があります。
実施場所	航空機：富山湾近海の上空（富山県入善町・朝日町周辺沖合） 地上観測：入善町園家山キャンプ場
実施内容	<ul style="list-style-type: none">航空機（小型プロペラ機）を使用し、富山湾近海上空の高度約3,500mから雪雲に向けて、直径約3mm、長さ6mm～10mmのドライアイスの粒（約20～100kg/フライト）を散布します。上空での航空機の滞在時間は1フライトあたりおよそ1.5時間を予定しています。散布されたドライアイスは高度約1,500mまでに完全に昇華（気化）するため、陸地や海面、海中への影響はありません。本実証実験は、これまでの研究成果を踏まえ、安全性に配慮した方法で小規模に実施されます。また実験期間中の実施日は、当日の気象条件をもとに判断します。富山県東部北・新潟県上越地域に大雪警報が出ている場合や、富山湾から陸地に向かって風が吹いている場合には、人工降雪実験は実施しません。事前の天気予報モデルを用いた計算機シミュレーション実験などで、気象や陸地の降雪への影響はほとんどないことを確認しています。気象用レーダーやライダーなど複数種の観測機器、予備的な観測のためのドローンも活用し、雲や大気の状態を詳細に観測して効果を検証します。地上（入善町園家山キャンプ場）で、観測を実施します。

項目	詳細
実施主体	ムーンショット目標8 プロジェクト「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」（千葉大学・富山大学・富山県立大学）
実施責任者	プロジェクトマネージャ 小槻峻司（千葉大学・環境リモートセンシング研究センター）

3. 取材に関するご案内

本実験に関して、下記の日程で取材対応を行います。

期間：

（実証実験） 2026年1月6日（火）～1月15日（木）予定

場所： 富山県入善町園家山キャンプ場内の陸上観測拠点

対応者： 千葉大学・株式会社たがやす

4. 本件に対するお問い合わせ先

取材等のお問い合わせは下記までお願いいたします。

プロジェクト広報窓口（株式会社たがやす 鈴木・栗原）

連絡先：076-481-6399 info@tgys.co.jp

（参考）

2025年10月に住民説明会を開催しました。実験計画や住民説明会については、下記URLを参照してください。

<https://beyond-predictions.com/category/news/public-briefing/>